

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査・学校質問調査の項目について（案）

1. 質問調査項目の構成

○ 質問項目数

全体の質問項目数は、児童生徒及び学校の負担を軽減するとともに、正確な調査結果を得る観点から、児童生徒質問は 70 項目程度、学校質問は 80 項目程度とする。

○ ランダム方式の試行的な導入

教科調査「中学校理科」において CBT-IRT（分冊方式）が導入されることを受けて、生徒質問調査において、一部をランダム方式で実施する。

- ・同じカテゴリーの質問項目群からランダムに選ばれた一部項目のみを質問する。
令和 7 年度調査では、ランダム方式での実施は生徒一人当たり 3～4 項目程度とする。
- ・ランダム方式で実施するのは、全体の傾向を把握することを主目的とする質問項目とし、一人一人の指導に生かすための質問項目は引き続き悉皆で実施し、結果を返却する。

2. 令和7年度質問調査項目のポイント

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する項目

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況等を明らかにするため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や個別最適な学び・協働的な学びに関する項目を継続し、各教科の正答率との関係などについて更なる分析を行う。

(2) ICT を活用した学習状況に関する項目

TIMSS2023 の結果も踏まえ、児童生徒の ICT を活用する自信と学力との関係等について、よりきめ細かに把握できるよう項目を充実させる。

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関する項目

①全般

TIMSS2023 の結果を踏まえて、各教科の得意・苦手に関する意識、各教科の興味・関心等の男女差等について分析するための項目を追加する。

②理科

令和7年度調査では教科調査「理科」を実施するため、理科の学習に対する興味・関心や授業の理解度、学習活動等に関する項目を充実させる。

(4) コミュニティ・スクール等に関する項目

家庭や地域との連携・協働に関する取組の状況をよりきめ細かに把握できるよう、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等に関する項目を充実させる。

(5) 不登校児童生徒、特別な配慮を必要とする児童生徒、外国人児童生徒等について分析するための項目

不登校児童生徒、特別な配慮を必要とする児童生徒、外国人児童生徒等への支援の充実を進めるため、このような児童生徒について分析するための項目を新たに盛り込むことを検討する。